

平成 28 年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

平成 29 年 4 月に新しい専門医制度がスタートする予定であったが、医師の地域偏在への懸念や勤務医の待遇が不透明などの意見が日医を始め各方面から出され、制度の開始が 1 年先送りされた。新制度の発足が、混迷を極める中、勤務医には、ほかにも医療安全対策、過重労働、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、自身を取り巻く問題が多岐に渡っている。いずれの問題もこのままでは放置できない状況となってきたが、勤務医部会としては、このような状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取組んでいるほか、女性医師の抱える勤務環境の問題を専門に協議する場として、これまでの女性医師WGの在り方を大幅に見直し、26 番目の常任委員会として新たに「医師のワークライフバランス委員会」を設置した。

女性医師のみならず、すべての医師が働きやすい環境を整備していくことは医療業界全体にとって重要な課題であり、そのための提言や事業の策定を目的としている。初年度は 16 年 8 月から始動し、これまで 3 回の委員会を開催した。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来 32 年を迎えた。部会員数、即ち、B・C会員数は、平成 29 年 1 月 1 日現在、1,795 名で昨年より 82 名の増となり、京都府医師会総会員中、42.3%を勤務医部会員が占めている。ただ、これは全国平均の 51.2%（28 年 11 月現在での日医集計による）と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約 3 分の 2 が医師会に未加入であることを考えると、依然、組織率が低迷していると言わざるを得ない。

過去 5 年間の勤務医部会員数の推移

年	勤務医部会員数	京都府医師会総会員数	割合
平成 29 年	1,795 名	4,243 名	42.3%
平成 28 年	1,713 名	4,148 名	41.3%
平成 27 年	1,684 名	4,120 名	40.9%
平成 26 年	1,692 名	4,125 名	41.0%
平成 25 年	1,707 名	4,154 名	41.1%

※基準日：1 月 1 日現在

3. 部会役員に関する件

森勤務医部会長のもと、幹事長に鴻巣寛氏、副幹事長には安田健治朗氏、若園吉裕氏、吉田憲正氏、紀田康雄氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。なお、任期は府医役員に準じ平成 29 年 6 月定時代議員会まで。

役職	氏名	医療機関	備考
部会長	森 洋一	森小児科医院	
幹事長	鴻巣 寛	綾部市立病院	
副幹事長	安田 健治朗	京都第二赤十字病院	
〃	吉田 憲正	京都第一赤十字病院	
〃	若園 吉裕	京都桂病院	
〃	紀田 康雄	第二岡本総合病院	
幹事	柴 禄郎	京都鞍馬口医療センター	
〃	八田 陽一郎	京都第二赤十字病院	
〃	衛藤 美穂	京都第二赤十字病院	
〃	相良 幸彦	堀川病院	
〃	小暮 彰典	京都市立病院	

//	吉波 尚美	京都市立病院	
//	高橋 滋	洛和会丸太町病院	H28.3.24~
//	清水 聡	新京都南病院	
//	高橋 周史	武田病院	
//	大越 香江	日本パプテスト病院	
//	谷川 徹	北山病院	
//	森村 達夫	宇多野病院	
//	松井 淑江	京都桂病院	
//	水野 雅博	三菱京都病院	
//	巨島 文子	京都第一赤十字病院	
//	兼子 裕人	愛生会山科病院	
//	土谷 美知子	洛和会音羽病院	
//	徳永 千恵美	洛和会音羽病院	
//	橋本 哲男	医仁会武田総合病院	
//	瀬田 公一	京都医療センター	
//	高尾 由美	京都医療センター	
//	中嶋 俊彰	済生会京都府病院	
//	小屋 美津彦	宇治武田病院	
//	中田 雅支	京都山城総合医療センター	
//	天池 寿	亀岡市立病院	
//	辰巳 哲也	公立南丹病院	
//	川上 定男	市立福知山市民病院	
//	富士原 正人	京都ルネス病院	
//	竹内 一雄	舞鶴共済病院	
//	北森 伴人	舞鶴医療センター	
//	中川 正法	京都府立医科大学附属北部医療センター	
//	坂井 義治	京都大学医学部附属病院	
//	横出 正之	京都大学医学部附属病院	
//	松村 由美	京都大学医学部附属病院	
//	藤原 斉	京都府立医科大学附属病院	
//	中西 正芳	京都府立医科大学附属病院	
//	外園 千恵	京都府立医科大学附属病院	

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

28年度は1回の幹事会と2回の正副幹事長会を開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。

開催日	会合名	協議事項
28. 4. 14	正副幹事長会	(1) 勤務医部会の進め方について (2) 「提言」について (3) 「勤務医のみなさまへ」の刷新について (4) 今後の勤務医部会のあり方について
28. 7. 23	幹事会	(1) 話題提供：医療事故調査制度の現況と課題について (2) 勤務医部会総会の開催について (3) 「提言」について
28. 11. 10	正副幹事長会	(1) 勤務医部会総会について (2) 「提言」について

5. 府医各種委員会委員等への推薦

今期、勤務医部会から府医各種委員会の委員として下記3委員会に3名の幹事を推薦し、各委員会にて勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

- ◆医業経済・融資幹旋委員会 紀田 康雄 副幹事長
- ◆情報・企画広報委員会 巨島 文子 幹事
- ◆学術・生涯教育委員会 瀬田 公一 幹事

また、勤務医部会会員数が府医会員総数の40%以上を占める中で、府医代議員101名中、勤務医の代議員数は7名、京大および府立医大の計3名を加えても計10名と、その比率は0.6%であり、勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況といえ、この点は今後の課題と言える。

6. 京都府医師会への入会促進

本年度より始まった初期研修医の医師会費無料を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、100名の入会を得ることができた。

7. 乳がん検診などへの出務医師の派遣

地域医療活動として、京都府医師会乳がん検診委員会と調整の上、出務医師の派遣を行っており、今年度は京都市内（2地区）において6回、延べ12名の勤務医を派遣した。

8. 第40回京都医学会への演題発表

平成28年9月24日（日）に開催された第42回京都医学会では勤務医から67題ものポスター・口演演題発表があり、医学会を盛り上げた。

9. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

10. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

平成28年11月26日（土）、大阪府大阪市で開催された平成28年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（大阪府医師会主管）に鴻巣幹事長、若園副幹事長、紀田副幹事長および事務局が参加した。協議会はメインテーマを「2025年問題と勤務医の役割」とし、シンポジウムでは勤務医を取り巻く問題の中で喫緊の課題である「医療事故調査制度の動向」や「女性医師の働きやすい環境づくり」を取り上げ、様々な視点で2025年問題を見据えた取り組みに関する発表がなされるとともに、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論が行われた。なお、協議会当日には下記の「おおさか宣言」が提案された。

おおさか宣言

高齢化の進展に伴い、2025 年以降は国民の医療需要が急激に変動する。国民の医療を守るためには、勤務医とかかりつけ医が連携する地域包括ケアの重要性が強調されており、勤務医とかかりつけ医のスムーズな病診連携、更には医療と介護との連携が課題である。

国民から信頼される医療を行うためには、医療の質の向上が不可欠であるが、実施後 1 年が経過した医療事故調査制度は、いまだ医師や国民に制度内容が十分に理解されているとはいえない。また、良質な医療を提供するためには、勤務医の就労環境の改善が必須であり、今後さらに増える女性医師への支援が求められる。さらに、2018 年度から開始が予定される新たな専門医の仕組みでは、医師の偏在が危惧されており、適正な地域医療を確保する観点に配慮した仕組みの構築が急務である。

このような状況をふまえ、2025 年に向けた医療提供体制の構築にあたり、勤務医が果たすべき役割を担うため、次のとおり宣言する。

- 一、2025 年を見据えた入院医療と在宅医療における切れ目ない病診連携体制を構築する
- 一、国民に理解される医療事故調査制度とするために、再発防止を目的とした制度の周知徹底を図り、医療安全を確立する
- 一、勤務医の就労環境を改善し、女性医師への支援体制をさらに充実させる
- 一、地域医療に不都合を生じさせない新たな専門医の仕組みの構築を求める

平成 28 年 11 月 26 日
全国医師会勤務医部会連絡協議会・大阪

11. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

平成 28 年 5 月 20 日（金）、日医会館で平成 28 年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、上田府医理事と事務局が参加した。協議会では「勤務医の意見等を吸い上げるためのフレームワークについて」をメインテーマに、日医常任理事よりシステムの構築に向けた議論が進められている状況や今後の課題について報告がなされた後、全国展開を図るうえでの問題点や要望などについてディスカッションが行われた。